

駅前広場整備における都市計画的工夫に関する研究

熊本大学工学部 学生会員 ○山口 賢人

熊本大学 正会員 星野 裕司

熊本大学 正会員 増山 晃太

1. はじめに

1-1. 背景と目的

駅前広場計画指針では「鉄道は私たちの生活を支える交通手段であり、駅前広場は鉄道と地域を結びつける重要な都市基盤施設である。また、駅周辺では都内の交通が集中し、商業機能等が集積するなど、まちづくり上も重要な地域である。」とされている。戦前、駅前広場は駅舎の前庭的存在として位置付けられており、本格的な駅前広場整備が行われるようになったのは1950年代以降である。1990年代には、駅前広場に求められる機能、役割が多様化し、駅前広場整備の地域の要請に的確に応える必要性が高まった。これらを踏まえ、駅前広場計画指針研究会が発足され、1998年「駅前広場計画指針」が刊行された。これまでも昭和33年刊行の「駅前広場設計資料（建設省都市計画課編）」など駅前広場計画における指針は存在したが、「環境空間」の考えが取り入れられたのは「駅前広場計画指針」が初である。

「駅前広場計画指針」では、環境空間、交通空間の面積や配置に指針が示された。本研究では駅前広場整備において指針にのっとり、整備を行うための都市計画決定の仕方を「都市計画的工夫」とし、その実態を明らかにすることを目的とする。

「都市計画的工夫」の例を示す(図-1)。柳ヶ浦駅駅前広場は1つの広場のようであるが、都市計画決定された駅前広場は中央の青の枠内のみである(図-2)。

1-2. 研究対象と方法

対象とする駅前広場は国内で2000年以降に賞を受賞した駅前広場を対象とする。また対象とする賞は日本国内の土木建築分野において駅前広場、または駅前広場整備事業に贈られるグッドデザイン賞、土木学会景観・デザイン委員会デザイン賞、全建賞、都市景観大賞、BCS賞の5つ賞を対象とする。対象となる駅前広場は60件で、うち11件が重複して賞を受賞している(図-3)。研究方法は対象の駅前広場を都市計画時の土地利用ごとに分類化を行い、その後各分類の工夫の意図をまとめ考察



図-1 柳ヶ浦駅駅前広場

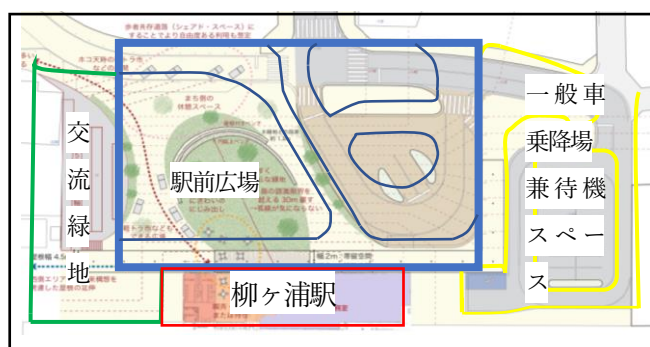


図-2 柳ヶ浦駅駅前広場計画図

- ・グッドデザイン賞 (18 件)
 - ・土木学会景観・デザイン委員会デザイン賞 (14 件)
 - ・全建賞 (21 件)
 - ・都市景観大賞 (11 件)
 - ・BCS 賞 (5 件)
- (全 60 件)

図-3 対象とする駅前広場の件数

する。各駅前広場の土地利用は都市計画図、または行政へのアンケート、ヒアリングによって調査を行う。

2. 駅前広場の分類化

駅前広場を「都市計画道路かつ駅前広場として都市計画決定された土地」「オープンスペース」の2つの項目に分け、分類化を行う。「都市計画運用指針」より本研究における「オープンスペース」とは「公共空地」「交通広場」を指す。「公共空地」とは公園、緑地、広場、墓地、その他公共空地の5つを示す。その他の公共空地には行政、鉄道会社の用地を含む。「交通広場」は道路の一部を構成する「交通広場」と、それ以外の「交通広

場」が存在するが、そのどちらも「交通広場」として定義する。

分類化について3つの分類に分けることができる。1つ目は「単体型」である。「単体型」は「駅前広場かつ都市計画道路として都市計画決定された土地」のみで整備された駅前広場を指す。2つ目は「オープンスペース隣接型」である。「オープンスペース隣接型」は「都市計画道路かつ駅前広場として都市計画決定された土地」に「公共空地」「交通広場」が隣接して整備された駅前広場を指す。3つ目は「代替型」である。「代替型」は「公共空地」「交通広場」のみで整備された駅前広場を指す(図4)。

3. アンケート状況

60件のうち12件の回答があった。「単体型」は「熊本駅新幹線口広場」「天理駅前広場コフフン」「札幌駅南口駅前広場」「福井駅西口交通広場」「浜松北口駅前広場」「阪急西宮北口駅南駅前広場、阪急西宮北口北東駅前広場」の6件である。「オープンスペース隣接型」は「熊本駅白川口駅前広場」「おゆみ駅前広場」「敦賀駅前広場」の3件である。代替型は「富岡駅緑の広場」「女川駅前広場」「みなまき みんなのひろば」の3件である。

4. 行政へのヒアリング

「熊本駅白川口駅前広場」について熊本市職員にヒアリングを行った。熊本駅白川口駅前広場は「オープンスペース隣接型」であるが、都市計画時の土地利用については、駅前広場整備以前から都市計画決定された土地のまま整備を行っていることが明らかとなった。交通広場について、平成13年に都市計画道路熊本駅帯山線都決時道路起点広場として決定しており、平成19年の名称変更時に、交通広場を都市計画道路に含めて都市計画決定している。その後、一体的に18000㎡で、都市計画道路として事業認可をとっている。これらの決定は、基本計画策定時やデザインガイド策定時のゾーニングに影響を与えている。例えばロータリー等の施設配置などである。

5. 終わりに

本稿では2000年以降に賞を受賞した駅前広場を対象に都市計画時の土地利用の工夫について調査を行った。

1 単体型



3 代替型



2 オープンスペース隣接型



図-4 駅前広場の分類化



図-5 熊本駅西口駅前広場



図-6 高山駅東口駅前広場



図-7 みなまき みんなのひろば

今後60件の駅前広場の分類をまとめ、各分類からいくつかの駅前広場に対してヒアリングを検討する。その後各分類の「都市計画的工夫」をまとめ考察を行う。

【参考文献】

- 建設省都市局都市交通調査室監修・社団法人 日本交通計画協会編：「駅前広場計画指針」，1998.
- 小滝 省市，高山 純一，中山 晶一郎，埴 正浩：「駅前広場の環境空間の実態及び計画課題に関する研究-都市中心駅の駅前広場を対象として」土木学会論文集 vol.71, No.5 (土木計画学研究・論文集第32巻)，I_247-I_256, 2015
- 公益社団法人 日本交通計画協会 駅・周辺地区まちづくり研究部会：「駅」と「まち」の再構築「駅・まち」提言(第2編)2019」，2019